

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月24日

事業所名 多機能型事業所ホープみさかえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・人数に応じ、遊戯室や戸外の活動を取り入れたり、2部屋に分けたり、狭い空間にならないように心がけている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・配置数は適切である。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・整理整頓を心掛け、本人にわかりやすく、安全に活動ができるように気を配っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・部屋使用前後の清掃、換気、消毒をしっかりと行っている。また活動に合わせた配置換えなど工夫している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・毎日の振り返りで、個々の対応改善に繋げるとともに、目標確認も行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	・保護者の評価は良好であるが、もっと保護者との会話を増やし、要望等を聞いていきたい。	・保護者のアンケート上の評価は良好であるが、アンケートに表れないことも考えられるので、送迎時等普段の会話の中に潜む、要望等を汲み取れるようにしていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・事業所ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・外部評価はしていない。	・今後検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・月1回、内部研修を実施しちる。 ・外部研修にもできるだけ参加するようにして、受講者の伝達研修を実施している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・契約の際に保護者から利用法や本人の状況を聞き、そのことを反映して、計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	・保護者情報や本人観察により状況把握をしている。	・アセスメントツールの導入と活用を検討する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・必要に応じて取捨選択して、項目別にわかりやすい表記で個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・スタッフで共通理解し、計画に沿って支援しているが、本人の状況によっては臨機応変な対応もある。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・スタッフ間で提案し、話し合ってプログラム作成をしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・静と動を上手く取り入れバランスを考えながら、療育を行っている。 ・マンネリ化にならないように活動内容を考え工夫している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・送迎時や連絡帳などで体調を把握し状況に応じて活動に取り組んでいる。		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月24日

事業所名 多機能型事業所ホープみさかえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎日、支援開始前の打ち合わせを実施しているが、時差出勤により不在の職員には、伝達ノートにより共有化を図っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・その日のうちに時間が取れない場合は、次の日の打ち合わせと合わせて、振り返りを実施して、情報共有を図っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・日々しっかりと記録をとり、その後の会議等で検証、改善策を話し合っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・随時行い、判断している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援責任者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・定期的に行われる自立支援協議会での情報共有や必要に応じ連携を取っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・連携を取り、支援を行っている。 ・保育所、幼稚園、養護学校などの先生方から日々の様子などを情報共有しながら支援に役立っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・対象児のかかりつけ医は確認しており、必要であれば連絡は取れる体勢である。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・利用が始まる時点で担当者会議を行い、情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行シートを作成して、情報提供をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	・関係機関との連携を取れる状況にはあり、取っていてもいるが、このコロナ禍でままならない状況にもある。	・コロナの状況が好転すれば、連携を密にとって行くことになる。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・コロナ禍で他の施設との交流を図れる現状にない。	・コロナの状況が好転すれば、他施設との交流も図りたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時に直接伝えたり、連絡帳で伝え、共通理解を図るようにしている。	・保護者と、その担当者のみならず、スタッフ全員含めての共通理解になるよう取り組む。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	・準備中である。	・職員が研修に参加したり、支援に向けて準備中である。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年2月24日

事業所名 多機能型事業所ホープみさかえ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に丁寧に行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・個別支援計画を作成した後、保護者と確認し、同意を得ている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・連絡ノートやモニタリング、送迎時等、その時々、具体的なアドバイスや支援取り組みを行っている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	・コロナ禍でもあり、機会は少ないが、親子療育を通じ交流できる場はある。	・コロナ禍で行事等も開催できず、なかなか交流の機会を作れないが、状況が良くなれば行事等も開催し、交流の機会を作っていきたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・相談の都度、丁寧に対応。場合によっては担当者会議を開き、より以上の対応をすようにしている。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・部署たよりを毎月、事業所全体のたよりを年4回発行して、日々の活動内容や今後の予定をお知らせしている。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・十分に注意して扱っている。	
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・カード等の視覚支援やジェスチャーなどを用いるなどの配慮をしている。支援内容などをノートに記入している。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・コロナの影響で行事等が実施できていない。	・以前は交流があったが、最近はできておらず、今はコロナ禍で行事等も開催できず、交流を図れる機会がない。コロナが落ち着けば交流が図れるように配慮していきたい。
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルは策定し、訓練も実施している。 ・保護者への周知が十分でない。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		・月1回避難訓練を行っている。	
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○		・契約時及び毎年更新する調査票で確認している。 ・変更がある場合はその都度、お知らせいただくようお願いしている。	
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		・契約時に保護者に確認をしている。	・保護者に確認をして、医師の指示書が必要であれば、もらったうえで十分な対応をする。
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		・作成して周知をしたうえで、事例集として綴り、いつでも確認できるようにしている	
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		・機会あるごとに施設内研修を実施している。また朝礼時等にも注意喚起を促している。 ・外部研修にも職員が交代で参加して、他の職員への伝達研修を行っている。	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		・身体拘束の必要性が感じられる場合は、十分に検討したうえで、事前に保護者に確認を取り、利用児のその時の状況によって拘束するかを判断する。そのため計画には記載していない。	